

人権読み聞かせをする企画委員会



## 人権について考える

校長 前田 倍成

今月の全校集会で、みんなに問うてみました。「何気ないことで友達に嫌な思いをさせたり傷つけたりしたことはありませんか。反対に、友達の言葉や行いで傷ついたことはありませんか。」どの子も思い当たることが少なからずあるようでした。中には「どっちもありません」と返してくれた子もいました。

学校の中のことに限りません。報道にもあるように、差別やいじめのこと、外国の人や障害のある人に対して偏見を持つこと、また、インターネットのSNSやオンラインゲームを通してひどいことを言ったり言われたりすることなど、学校の外でもたくさんの問題が後を絶ちません。

では、どうしてこう、酷いことを言ったり、嫌なことをしたりしなくてはならないのでしょうか。みなさんはどう考えますか…。

12月6日（金）、企画委員会が企画立案し、全校に向けて「人権」について考える機会を提供しました。企画委員が校内放送で紹介・読み聞かせをした2冊の本の内容を素材として「人権を守っていくために、どんなことが大切か、どのように行動していくか」についてクラス毎で話し合いました。

人権とは「一人一人が違っていて、その人らしく社会の中で自由に考え行動し、幸福に暮らせる権利」のことで、すべての人が生まれながらにもっている権利のことです。

そして、世界中すべての子どもたちがもつ人権（権利）を定めた条約が『子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）』です。1989年11月20日、国連総会において採

扱われています。この条約を守ることを約束している「締約国・地域」の数は196に及び、もちろん日本も締約しています。世界で最も広く受け入れられている人権条約とも言われています (<https://www.unicef.or.jp/crc/>)。



人権読み聞かせの2冊

左：『ランカ』

作 野呂さくえ

絵 松成真理子



右：『わたしがいじわるオオカミになった日』

作 アメリー・ジャボー

絵 アニック・マソン

訳 ふしみ みきを



5年生のある教室での話し合いでは、最初「決めなくちゃならないから決める」決めることがゴールのようになんだか機械的に進みました。しかし最終的には、目標を「だれもが楽しく生活できること」とし、大切にしてこれから実行する具体を「みんなは平等、差別をしない 悩みがあればだれかに相談する」と決めました。

「これ、できるん」と尋ねると「できんかも…」「そう意識はしとったけど実際にはしてなかった」という子どもたちはたくさんいました。でも大丈夫、だからこそ今から実行できることを話し合ったんだよね。『誰か』のことじゃない』他人事にせず、自分のこととしてみんなで考え、行動してほしいものです。

12月4日～10日は「人権週間」です。自分もお友だちも一人ひとりが違うことを知り、それぞれの違いを大切にすることを考える、そんな1週間になっていれうれしいです。特に、10日は「人権デー (human rights day)」で、世界中の人が人権について考える日。ぜひご家庭でもお子様と話し合う機会をもっていただければ幸いです。

志賀小のみなさんには、他の人が自分と違うことをお互いに認め合い、優しく受け入れ、人を傷つけることのない、そんな人になってほしいと、心から強く願っています。

— 受賞、おめでとうございます —

【令和6年度親子の架け橋一筆啓上「親子の手紙」】

優秀賞 6年生 川瀧 隼, 5年生 室坂 彩菜

佳作 1年生 山瑞 優愛



【令和6年度羽咋郡読書感想画コンクール】※特選は県審査へ

自由図書部門 特選 1年生 北口 空来, 大島 ふみの

入選 1年生 浅井 遙斗, 山岸 海都, 稲岡 玲子, 川畑 唯路羽  
岩本 杏花, 田口 太智

指定図書部門 入選 1年生 瀧川 あさひ, 向田 拓叶, 向出 安寿, 大岡 侍真